

## 編集 後記

編集委員になってちょうど1年になりますが、振り返ってみて、いくつか大きな変化があった年ではなかったかと思います。まず、投稿論文受付からの返却までの時間の短縮を目的として、電子メールを用いた迅速な流れが出来上がったことです。この結果、掲載までの期間が他の雑誌と比較し長いと批判の多かった本誌ですが、前年度までと比べ約2ヶ月短くなりました。今後も査読委員のご協力を頂き、迅速な対応が可能になればと考えております。また、2年前から開始した英文号を今後は11月号として発刊するのではなく、英文論文を適宜掲載するという方針にした点です。つまり、和文と英文の論文が混在した雑誌になるということです。これも投稿した時期を限定せず、採用が決定したら速やかに掲載できるようにすることを主旨とした改善です。また、雑誌の大きさをA4版にすることが決定されたことに伴い、更なる内容の充実を検討しています。例えば、さまざまな公衆衛生に関わる情報の掲載も行われることになるかと思えます。

本誌が会員の皆さんの公衆衛生活動・研究に役立つものとするために、現在は投稿論文の種類に関わらず同じものが用いられている査読用紙を論文の種類によって変更することも必要であると私は考えています。特に、「公衆衛生活動報告」や「資料」は、「原著」や「短報」のような「独創的な研究」(本誌投稿規定)ではない以上、その論文の内容の評価についても、異なった基準でなされるべきであると考えます。今後の検討課題ではありますが、学会総会で発表される1200を超える報告の中で優れた活動を本誌に積極的に投稿頂きたく存じます。

会員の皆様からのご意見、ご提案が本誌をより良いものにする上で必須と考えます。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。  
(安村誠司)

### 1号予告(第54巻・第1号)

#### 原 著

臨床調査個人票から得られる難病の発病年齢  
.....太田晶子, 他

#### 資 料

全国47都道府県における高齢者の要介護未認定期間と標準化死亡比.....武田俊平  
特定疾患医療受給者の実態  
疾患別・性・年齢別受給者数とその時間的变化  
.....太田晶子, 他